

平成22年度一般会計当初予算説明資料

6款 農林水産業費

1項 農業費

11目 農業大学校費

農業大学校(電話:0858-45-2411)

(単位:千円)

事業名	本年度	前年度	比較	財源内訳				備考
				国庫支出金	起債	その他 (財産収入等)	一般財源	
研修事業費	8,192	8,306	△114	4,095		3,673	424	
トータルコスト	29,169千円 (前年度 25,705千円)[正職員:2.6人]							
主な業務内容	就農希望者等に対する研修教育、農業分野の国際交流、研修施設の運営							
工程表の政策目標 (指標)	卒業生(学生)及び研修生の就農率60%							

事業内容の説明

1 事業の目的・概要

就農形態が多様化する中で新規就農希望者からの研修要望や緊急雇用対策にも応え、就農希望者への研修を重点的に実施する。また、その他就農希望者等が必要な技術・知識を得るための研修、及び、一般県民に農業への理解を深めてもらうための食農体験研修、環日本海諸国の外国人等を対象とした国際農業技術研修等を行う。

2 主な事業内容

区分		種類	回数・人員	対象	内容	
研修課程 短期研修科	3か月コース	5専攻	年3回、各5名程度	就農希望者等	就農に必要な基礎知識、基本技術習得、経営計画作成	
	6か月コース	3専攻	年2回、各5名程度			
	12か月コース	4専攻	年1回、各5名程度			
一般 研修	就農研修	就農体験研修	1研修	随時、約10名	就農希望者等	就農に必要な基礎知識、基本技術の体験
		アグリスタートサポート研修	3研修	年6回、各15名	農業研修生	農業基礎集中講座、大型農業機械操作研修等
	農業機械研修	2研修	年3回、約34名	農業者等	大型特殊免許技能、牽引免許技能の講義・実習等	
	食農体験研修	1研修	随時、約3,000名	一般県民等	農業に対する理解を深めるための農作業体験等	
	国際農業技術研修	1研修	2回程度	外国人研修生	日本の農業基礎技術等の習得	

《 短期研修科の特色》

- 3・6・12か月の3つの期間別コースを設けており、短期間での集中的研修から経営管理を含んだ長期間の研修まで、多様なニーズに対応
- 講義は、研修生のための基礎的な必修講義に加えて、養成課程の学生向けの講義も聴講でき、幅広い知識習得が可能。また、先進農家事例視察や市場視察等、現場で研修する機会もある。
- 登校日は原則として開講期間中毎日(土日、祝祭日等の休日を除く)とするが、研修生の多様な状況を考慮し、あらかじめ指定した週2日の指定研修日に全て出席した者に修了証書を授与

3 これまでの取組状況、改善点

○「短期研修科」の充実と、研修生の就農支援

即就農に役立つ効果的なカリキュラムの実施、個人面談やアンケート等によるニーズの把握、就農相談会の実施し本県への就農を促進する。

20年度実績:受講者延べ24名、就農21名(91%)

21年度実績:受講者延べ31名、就農見込28名

○就農体験研修、食農体験研修等の一般研修の充実

短期研修科受講前の就農体験研修、一般県民対象の食農体験研修、農業者の営農技術向上のための営農研修、環日本海諸国で農業を習得したい方を対象とした国際農業技術研修の充実を図った。

*21年度からアグリスタートサポート研修として、IJUターン希望者等公社研修生を対象に農業の基礎的知識、大型機械操作の技能習得を行い、22年度においてはこの研修を重点化する。